

話 題

ま ち の

白根のはさ木が年賀状に 田中武夫

田中武夫さん(下八枚出身)が描いた「はさ木」の年賀はがきが発売され、これを記念した作品展が、十一月一日から四日まで市内のスポーツセンターには田中さん自身も出席。「このはさ木は、昭和二十年ころ実家近くで描いたスケッチがもとになっている」と話していました。現在、入広瀬中学校で教頭を務め、「転勤が多く、行く先々でその土地の自然を描き続けている」とも。はさ木の年賀状は好評で、白根郵便局でも発売当日で一万枚以上が売れ、今はほとんど在庫がないそうです。



意地悪ばあさん大いに語る 青島幸男

白根商工会主催の文化講演会が、十一月四日カルチャーセンターで、講師に青島幸男さんを招いて行われました。青島さんは作家、タレント、参議院議員など多方面で活躍。テレビでもドラマ「意地悪ばあさん」や、「追跡」の司会でおなじみの人。放送作家へのきっかけは漫才師への脚本の投稿。「人間万事塞翁が馬」で直木賞を受賞した際に、「同じ放送作家だった藤本義一や井上ひさしへの、妻の見栄があつたなどのおもしろいエピソードも。最後は自身のさまざまな経験から、周囲の人を気遣うことが大切と結んでいました。



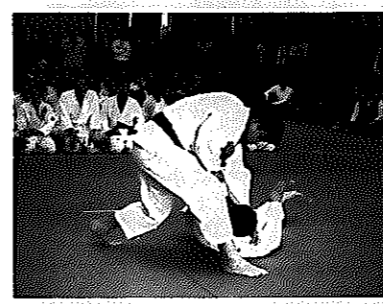
世界の小川を迎え、柔道場落成を祝う

小川直也選手の実技指導と講演会

柔道の無差別級世界チャンピオン小川直也選手(JRA日本中央競馬会)と篠巻政利さん(元明治大学柔道部監督)を迎え、十月二十八日小・中・高校生の実技指導と講演会が、カルチャーセンター柔道場で開催されました。これは、同センター柔道場の落成を記念し、市柔道連盟が主催したものです。実技指導では、休憩も入れず約一時間にわたって乱取りで指導。小川選手に立ち向かう生徒たちは、真剣そのもの。



「なれる」と参加した小・中・高校生を激励。また、小川選手は「エッセンでの世界選手権では、補欠として行ったので、出場するとは思っていませんでした。気持ちの余裕もなく、今考えるとよく勝てたと思う。自分の柔道はまだまだ改善するところも多いので、これから頑張ります」と話していました。



多くの人の善意に感謝 おたまじやく

心身障害者通所作業所「おたまじやくしの家」の第二回バザーが十一月十一日、同所で開かれました。この催しは入所者の福祉向上に役立てようと始めたもので、今年で二回目。バザーには、入所者や父兄、ボランティアなど約三十人が、入所者で作ったエプロン、ろうそく、打ち豆や市民などから寄付された品物を即売。おたまじやくしの会会長の塩谷信雄さんは「市内のおばあさんたちが手作りの人形を寄付してくれたのはじめ、多くの人の善意で実施できました。大勢の人が訪れてくれ、感謝しています」と話していました。



優勝は即席ペア 白根断断ウオウラリー

十一月三、四日、「オートナム・ヤング・フェスティバル」が行われました。会場の青年教育センターには約二千四百人が訪れ、スキー映画やバザー、作品展などを楽しみました。今年の呼び物は白根断断ウオウラリーです。北海道旅行券を目指して十六組が参加し、約十一キロのコースにチャレンジ。あいにくの天候でしたが、ユニークな問題を解きながら、秋の白根路を楽しみました。優勝したのは佐藤正一さん(新潟市)と佐藤あつ子さん(中央通)。初対面の即席ペアながら、見事なチームワークを披露しました。

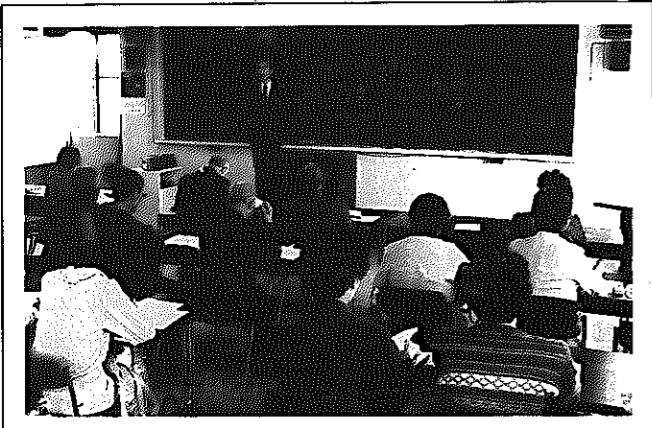


根強い良寛の人氣 市立図書館

文芸セミナー

市立図書館では、十月二十日と二十七日の二回にわたって「良寛をかたる」と題した文芸セミナーを開きました。会場の青年教育センター視聴覚室には、四十人を超える受講者が集まり、良寛の根強い人氣を伺わせます。

講師の谷川敏朗さん(全国良寛会常任理事、新潟市)は戸頭の出身で、良寛に関する多くの本を著しています。谷川さんは良寛の生涯やエピソード、また知野家や関根家、有願など、白根郷の人々と良寛との関係などを分かりやすく講義。受講者たちは静かにメモを走らせていました。



白根絞りを体験 白根地区公民館文化祭

サークルふきのとう

白根絞りの保存と継承に取り組んでいるサークル「ふきのとう」の皆さん。多くの人から白根絞りを体験してほしいと、白根絞り体験コーナーを開きました。これは十一月二日、三日に行われた白根地区公民館の文化祭の会場で行われたもの。

二日には、文化祭の見学に訪れた白根第一中学校のさつき字級の生徒四人が、ブドウの模様などの絞りに挑戦しました。絞り上げたハンカチはその場で染め上げられ、生徒たちは「いい思い出ができた」と、にこにこ顔。「どんな模様になっていたのか楽しみです」と話していました。

